



一昭和医科大学歯科病院の理念一

患者本位の医療
先進的医療の推進
医療人の育成

発行責任者 病院長 榎 宏太郎
編集責任者 広報委員長 松田 幸子
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1

TEL 03-3787-1151(代表)
いちいちごいち

ホームページ: <https://www.showa-u.ac.jp/SUHD/index.html>

子どもの口腔外傷

小児歯科 診療科長・教授 船津 敬弘

長雨をもたらした秋雨前線も去り、小学校などでは秋の運動会も盛んに行われていることと思います。スポーツが盛んになると、お口の怪我である「口腔外傷」が増加します。子どもの口腔外傷は特に1～2歳と7～8歳に多く見られます。1～2歳は歩き始めの時期、7～8歳は小学校に入学して活発に動き回る時期であり、口腔外傷の原因となる転倒や衝突が起こりやすいためです。口腔外傷では上の前歯を受傷しやすく、活発な男子に多く見られます。

子どもが転倒しやすい理由には、身体のバランスも関係しています。頭の大きさと首から下の身長比率をみると、成人は「頭1に対し首から下が7」ですが、2歳頃は「頭1に対し首から下が4」、7歳頃でも「頭1に対し首から下が5」しかありません。子どもは常に体に対して重い頭を支えている状態のため、転倒しやすいのです。

なお、小学校における歯の破折原因の1位は水泳、2位は鉄棒、3位は準備運動、4位は縄跳びとなっています（『学校の管理下の災害』令和7年版）。

もしお子さんが転倒して口から出血などがある場合は、まず以下の点をご確認ください。

頭部にも怪我をしている場合や吐き気などがみられる場合は、脳内に出血がある可能性も考慮し、すぐに「医科」を受診してください。

お口の周囲のみの怪我であれば「歯科」を受診してください。受傷から受診までの時間が短いほど治療後の予後が良いことが多いので、できるだけ早い受診をお勧めいたします。

歯が抜けた場合は受傷当日であれば元に戻すことが可能な場合もあります。ただし、歯の著しい揺れや抜けてしまったケースでは一般の歯科医院での治療が難しい場合もありますので、そのような際は「昭和医科大学歯科病院 小児歯科」に是非ご相談ください。



- P1 子どもの口腔外傷
- P2 診療科紹介：小児歯科
- P3 新入職員挨拶
- P4 部署紹介：薬局、編集後記

記事見出しの色分けをいたしました。

患者さん向け、医療機関向け、お知らせなど

診療科紹介：小児歯科

小児歯科 診療科長補佐・講師 下村 直史

私たち小児歯科は、乳幼児期から思春期までのお子さんを対象に、むし歯や歯肉炎の治療から予防管理、歯の外傷、歯の発育異常、口腔機能に関する問題まで幅広く診療しています。

子どもの口の中は成長発育の途中にあり、乳歯から永久歯への交換や顎の成長など、大人とは異なる特徴があります。そのため、小児歯科では現在の症状だけでなく、将来の健全な発育や口腔機能まで見据えた診療が重要です。当科では、お子さん一人ひとりの年齢や発達段階に応じた診療を心掛け、保護者の皆さまとともに口口の健康を支援しています。

こうした専門性を生かし、当科では地域の歯科医院と密接に連携しています。一般歯科医院では対応が難しい症例や、より専門的な診断・治療が必要な患者さんをご紹介いただき、治療後は再びかかりつけ歯科医院へご紹介することで、地域全体でお子さんのお口の健康を支える役割を担っています。また、発達障害や基礎疾患を有するお子さん、歯科治療への不安が強いお子さんについても、院内

各診療科と連携しながら安全で質の高い歯科医療の提供に努めています。

近年は、むし歯や歯並びだけでなく、「食べる」「飲み込む」「話す」「呼吸する」といった口腔機能の発達にも関心が高まっています。こうした背景から、2018年には「口腔機能発達不全症」が保険収載され、小児期から口腔機能を評価・管理することの重要性が広く認識されるようになりました。当科でも口腔機能の発達支援に積極的に取り組み、お子さんの健やかな成長をお口の面から支えています。

昭和医科大学歯科病院小児歯科では、診療から得られる知見を未来の子どもたちの健康と小児歯科医療の発展につなげるため、口腔機能に関する臨床研究にも取り組んでいます。ご興味をお持ちの方は、ぜひ小児歯科スタッフまでお気軽にお声がけください。

口腔機能発達不全について

お口の働き（食べる・話す・呼吸を助ける）が年齢相応に発達していない状態

（例）食べるのが早い・遅い、食べるときに音がすることばがよく聞き取れない、音の言い間違いがある
口をぽかんと開けて口呼吸をしている
舌の使い方にくせがある など



口腔機能発達不全症の検査に用いる機器



小児歯科医局員

新入職員 ご挨拶

このたび、口腔腫瘍外科に入職いたしました、河村峻介と申します。

これまでは大阪急性期・総合医療センター 歯科口腔外科に勤務し、口腔がんや顎顔面外傷などの口腔外科疾患を中心に診療に携わっておりました。特に口腔がんをはじめとした頭頸部領域の専門性を高めるべく、これまでの経験を活かし、知識・技術ともに成長していきたいと考えております。

患者さんの不安や悩みに寄り添う姿勢が大切だと考えております。安心した医療を提供できるよう、周囲とのつながりを大切に、一日も早くチームの一員として貢献できるよう精進いたします。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

口腔腫瘍外科 助教（歯科） 河村 峻介

本年4月より歯科麻酔科に入局いたしました菊地弘晃です。

歯科麻酔科では全身麻酔法や静脈内鎮静法を用いて、患者さんに安全に、安心して治療を受けていただけるよう全身管理を行っております。大がかりな手術を受ける方、お口の中に器具が入るとオエっとなりやすい方、治療に強い恐怖心を抱く方など、さまざまな背景を持つ患者さんに適した麻酔管理を提供できるよう努めております。

患者さんに「怖くなかった」「安心して治療を受けられた」と感じていただけるよう、丁寧なコミュニケーションを心掛け、日々研鑽を重ねてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

歯科麻酔科 助教（歯科） 菊地 弘晃

昨年までは大学院の論文執筆に多くの時間を費やしていましたが、現在は認定医の取得を目指して日々診療に励んでいます。より難易度が高く、専門性を要する患者さんを担当する機会も増えました。治療で新たな課題に直面するたびに、知識や技術を学び続けることの大切さを実感しています。

特に関心があるのは、成長期のお子さんの矯正治療です。大切な成長期に、私たちが「顎の成長」にどのように関わるべきかを考え、学び、得た知見を患者さんの治療に還元していきたいと考えています。患者さんが安心して治療を受けられるよう、丁寧で誠実な対応を心がけ、より良い治療を提供できるよう努めてまいります。

矯正歯科 助教（歯科） 阿部 拓樹

本年度4月より、顎顔面口腔外科に入局いたしました、永井美成子と申します。

専門性の高い知識と技術を兼ね備えた先生方の背中を追いかけて、当科で診療に携われることを心より嬉しく思っております。

現在は、骨切り手術のシミュレーションや簡単な抜歯処置をはじめ、口腔粘膜疾患の診察についても学んでおります。また、他科や歯科衛生士、看護師、薬剤師、内科の先生方と連携を図りながら、患者さまの全身管理についても日々勉強を重ねております。

患者さまのお気持ちに寄り添い、丁寧で安心していただける診療を目指して精一杯努めてまいりますのでよろしくお願い申し上げます。

顎顔面口腔外科 助教（歯科） 永井 美成子

部署紹介：薬局

薬局 高木 桂子

昭和医科大学歯科病院の薬局では、パートを含め5名の薬剤師が勤務しており、外来や入院患者さんの調剤、手術室における薬品管理、各部署における薬品管理、入院予定の患者さんの内服薬の確認をはじめ、患者さんへの服薬説明などを中心に、薬の専門家としての知識を活かして、患者さんがより良い医療が受けられるよう日々研鑽しております。

多くの外来患者さんは、病院内で働いている薬剤師の姿を目にすることは少ないかもしれませんが、病院薬剤師は、入院中の全ての患者さんの常用薬の確認、入院中に使用する薬の服薬説明、使用している薬の定期的な副作用の有無の確認、退院時の服薬説明だけでなく、常用薬と病院で処方された薬の飲み合わせが悪くないか、重複していないか、患者さんの体重から計算して適切な薬の量なのか、患者さんの状態に

応じた剤形（錠剤、散剤、坐剤など）が選択されているのか、などを考えて歯科医師や看護師と話し合いながら、チーム医療を実践しています。とくに、抗菌薬や鎮痛薬にアレルギー歴のある患者さんには、どの薬を選択することが可能か、歯科医師へ情報提供し、患者さんにとって最適な薬物治療を提供できるよう、日々取り組んでいます。

近年、多剤服用による問題が注目されています。複数の医療機関から薬が処方された場合、お薬手帳から同じ薬や飲み合わせの悪い薬が処方されていないかどうか確認することができます。医療機関に受診される際には、お薬手帳をお持ちください。災害時にも常用薬がすぐにわかりますので、保険証などと合わせて保管することをお勧めします。



薬局窓口



調剤棚

編集後記

9月は東京で37日連続の降水が観測されるなど、雨の多い日々が続きました。10月に入り、ようやく長雨も落ち着き、秋らしい空模様が戻ってまいりました。

季節の変わり目は体調を崩しやすい時期です。皆さまにおかれましても、体調管理に十分留意され、健やかにお過ごしください。



(S.U)